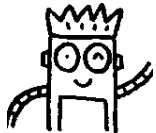


おおくましげのぶ 大隈重信は、どんな人だったの



明治・大正時代に、^{せいとう}政党的指導者、^{ざいせい}財政・^{がいがい}外交家
として^{かつやく}活躍した政治家だよ。

大隈重信（1838～1922年）は、^{さがはん}佐賀藩の上級武士の家に生まれ、長崎で
^{がっしゅうこくけんぽう}アメリカ合衆国憲法や、^{めいじいしん}イギリスの議会制度を学びました。明治維新後、長崎の
外国事務局判事となり、^{うらかみ}浦上キリシタンの^{るけい}流刑に対する外国公使団からの^{ひなん}非難を、
^{ないせいかんしょう}内政干渉（国内の政治に外国が口出しすること）であるとしりぞけました。その
後、^{かんぶ}大蔵省の^{さんぎ}幹部や^{かへいせいど}参議（今の大臣）をつとめ、^{かいかく}鉄道・電信の建設、貨幣制度の改革
などを行いました。

^{かいたくしかんゆうぶつ}開拓使官有物払い下げに反対し、^{せいふ}政府から追放された

やがて、^{さがはん}佐賀藩出身の重信と、^{さつま}薩摩・^{はんぼう}長州出身者の藩閥グループとの間に、対立
が生まれてきました。1881年、北海道開拓使という役所の、^{はんぼう}薩摩出身の幹部た
ちが、^{はいし}開拓使の廃止後は、その建物・土地・船・牧場・工場などを、自分たちに安
く払い下げてくれと願い出て、政府に認められました。世論はこれをはげしく^{ひなん}非難
し、^{はんぼう}藩閥の自分勝手なやり方を^{こうげき}攻撃しました。この結果、払い下げは中止されまし
たが、^{はんぼう}反対運動のリーダーと見なされていた重信は、政府から追放されました（明
治十四年の政変）。

政治家として活躍した

1882年から、^{りっけんかいしんとう}立憲改進黨などの政党的指導者として活躍するとともに、東京
専門学校（のちの^{わせだ}早稲田大学）をつくりました。1888年に外務大臣になり、^{じょう}条
^{やくかいせいこうしょう}約改正交渉にあたりましたが、交渉の内容がもれて、^{ぼくだん}反対運動が起こり、爆弾を
投げつけられて、^{あし}右脚を失いました。1898年、^{いたがきたいすけ}板垣退助とともに^{けんせいとう}憲政党を結成
し、^{わいはんないかく}第1次大隈内閣（隈板内閣）をつくりましたが、4か月後に総辞職しました。
1914年に第2次大隈内閣をつくり、第1次世界大戦への参加、中国への21か
条要求などを行い、1916年に総辞職して、政治家をやめました。